

CO・OP

京都の生協

2024/April/No. 111
京都府生活協同組合連合会



ホンマモンの植物で勝負する

TalkTalk トークトーク

◆京都府立植物園名誉園長・京都府立大学客員教授

まつ たに しげる
松 谷 茂さん

◆京都府生活協同組合連合会 会長理事

にし しま ひで ひさ
西 島 秀 向



対談

TalkTalk トークとーく

ホンマモンの植物で勝負する

京都府立植物園名誉園長・京都府立大学客員教授
松谷茂さん
京都府生活協同組合連合会 会長理事
西島秀向さん

今年100周年を迎えた京都府立植物園。絶滅危惧種や栽培困難種を含む膨大な品種と規模の栽培・展示、それを支える世界レベルの栽培管理技術を誇ります。しかし、開園以来の道のりは決して平坦なものではありませんでした。終戦後の危

機に加え、平成の時代にも存亡の危機に直面します。松谷茂名誉園長に、当時園長として職員とともに「ホンマモンの植物」で立ち向かった挑戦の軌跡と、未来に向けた京都府立植物園の発展への思いをお伺いしました。

100周年を迎えた京都府立植物園

西島 松谷名誉園長と京都府立植物園の関わりについてお聞かせいただけますか？

松谷 1975年に京都府に入庁し、農林部林務課で勤務した後1995年、京都府立植物園に樹木係長として赴任しました。2006年から園長を務め、2010年に退職して以降は名誉園長の立場か

ら、応援団の一人として植物園PRなどのサポートにあっています。

西島 京都府立植物園は今年100周年を迎えられましたね。

松谷 日本で最初の公立総合植物園として1924年（大正13年）に開園した歴史をもちます。もともとこの場所は、

大正天皇の即位を記念する「大典記念京都博覧会」のために、京都府が購入した会場予定地

でした。経済的な理由などから開催は実現せず、植物園の創設が決定。大森鍾一知事が大変尽力され、三井同族会からも多額の寄付を得て開園に至りました。

開園以前は賀茂川の河川敷

C/O/N/T/E/N/T/S

トークとーく対談

ホンマモンの植物で勝負する 2

食べるたいせつの取組

- きょうと食の安心・安全フォーラム～「信頼で紡ぐ京の食」をテーマに開催 7
- 親子オンライン食育企画 7
- 節分のイワシはこれで決まりだね！開催 7
- 2023年度京都府食の安心・安全意見交換会 7
- 京都府（市）令和6年度食品衛生監視指導計画案パブリックコメント 7

2024年京都府生協連 新春交歓会開催 8

TOPICS

- 農林水産省近畿農政局と近畿地区生協府県連との意見交換会 10
- 体感型防災アトラクション「ザ・リモート」共催 10
- コープ御所南ビル消防訓練 10
- 京都府、京都生協、京都府生協連の定期協議と物資調達机上訓練・意見交換 10
- 関西地連 非常用通信機器（MCA無線）訓練 10
- 各会員生協との相互連絡防災通信訓練を実施 10

2023年度 関西地連「大規模災害対策連絡会」... 10

- マスコミ関係者との懇談会 11
- きょうざれん「第5回ひとりぼっちをつくらない社会をめざす集い」 11
- 京都環境フェスティバル2024 11

学習会

- 日本の食料安全保障と農業の持続可能性 12
- みどりの食料システム戦略で日本の食料自給率は上がるのか？ 12
- おもな行事のお知らせ 12



京都府生活協同組合連合会 会長理事
西島秀向



京都府立植物園名誉園長 京都府立大学客員教授
松谷 茂さん

植物園の本質と使命は「生きた植物の博物館」

から続く荒地の田畑地帯だったので、洛外の地を整備してできた本格的な植物園に行くことは当時の人たちにとって一種のステイタスで、おめかしして訪れる場所だったようです。また、植物園周辺は環境がよいと思われ、東側・南側に住宅地が広がっていった経緯もあります。その意味でも地域に果たした役割は大きいと思います。

西島 終戦後は連合軍に接收されたのですね。

松谷 開園以来、最大の危機でした。将校クラスの家族用住宅地として指定を受け、家屋や道路を建設するために2万数千本あった樹木の7割強

が伐採され、池の水もなくなり、水生植物も全滅しました。1957年（昭和32年）によりやく全面返還されたものの、様変わりしひどい荒廃ぶり、府議会では復帰は無理だとの意見もあったようです。植物園では再開をめざし準備していたので、2年後の春にチューリップの品評会に合わせて無料公開したところ大変な好評を得ました。入園者アンケートでは、約8割が再開園に賛成で、「昔の植物園に復元せよ」「有料でよいから早く開園せよ」「公園化することなく純粹の植物園にせよ」などの声が多くありました。その後数回の無料公開はいずれ

も多数の来園があり、こうした府民の動きが後押しとなつて、1961年（昭和36年）に念願の再開園が実現しました。

西島 存亡の危機を切り抜けたわけですね。逆に伐採を免れたのはどの辺りなのか気がになります。

松谷 連合軍の中には理解ある人がいて、アンダーソン教育部長とアロウ中尉のはたらきかけにより、南東側の一部一帯だけは残されました。ですから、くすのき並木やその南側のヒマヤサギは設置当時のままなので、樹齢は100年を超え、園の歴史を見守り続ける遺産樹木となっています。

西島 在職中、特に心がけておられたことはありますか？

松谷 「現場から学ぶ」ことです。私は世界的な森林環境破壊に関する危機意識から森林・樹木に興味をもち、京都府立大学農学部林学科（現森林科学科）で学んだ後、京都大学大学院農学研究科に進み

ました。当時、京大の森林生態学研究室に世界的な森林生態学者の四手井綱英教授がおられたことがきっかけです。

四手井先生から叩き込まれた教えが「現場から学ぶ」でした。今ふり返ると、植物園に勤め始めてからもその教えがずっと生きていると感じます。

西島 京都府立植物園での現場は栽培管理でしょうか？

松谷 そうですね。実は赴任前、京都府立植物園に対する認識は「いつ行っても花がきれいに咲いている、広い緑の空間やなあ」というものでした。赴任後間もない頃に、当時の花壇係長の安達文良さん



と園内を歩いていて、私が「花壇の花きれいに咲いてんなあ」と言ったところ安達さんは「まつ谷さん、違うで。花は勝手に咲いてへん。咲かせてんやで」と即、答えが返ってきました。

私の認識と現実との大きな乖離を痛感するとともに、業務をとおしてその意味をより深く理解し、「植物園の本質はこれやな」と思い至りました。世界の植物を生きたまま展観させることで、府民の皆様喜んでいただく。言うは



易しですが困難を伴うことは多く、職員は栽培管理技術を磨く努力を重ね、守り育て、世界の植物の花を咲かせる研究に黙々と努力しています。それが植物園の存在意義であり、使命なんだと確信しました。

西島 絶滅危惧種や栽培困難種はなおさらですね。

松谷 はい、そうです。例えば、エキウム・ウィルドブレ

ッティは栽培困難種で、1980年に国内ではじめて種を導入し、1982年の日本初開花に至るまでにものすごく苦勞しました。その後も数代にわたって担当の職員が栽培技術を受け継ぎ、現在も花を咲かせています。また、1994年に新種のヤシと確認され、2000年から栽培しているマダガスカル島原産のミズヤシも国内ではじめて開花

に成功しました。現地でも絶滅危惧種とされ、世界でも栽培例がほとんどないと言われています。

植物園はこうした植物を生

かしたまま後世に伝え続ける使命も担っています。植物学的な観点から世界の植物を系統的に収集して栽培・育成・保存し、生きた姿を展示する。

「生きた植物の博物館」が植物園の本質です。公園や庭園とは違う。ましてや単なる緑空間とは根本的に異なる存在なのです。

ホンマモンの植物で勝負し、府民に還元する

西島 在職中、入園者を増やす取り組みに力を注がれたとか？

松谷 2004年(平成16年)に技術課長を任された頃、植物園存続の危機に直面しました。一つ目が入園者数の減少です。

西島 減少ほどの程度だったのでしょうか。

松谷 年間入園者数のピークは、整備事業により観覧温室などが新しくなった1992年度(平成4年度)の144万人。以来減少を続け、2002年度(平成14年度)には60万人を切りました。民間企業なら完全に倒産に陥る事態です。

二つ目は、翌年に指定管理者制度の施行によって、公の施設の運営管理を民間がおこなえるようになり、その対象

となり得る危機があったことです。高度な栽培技術とその継承が生命線の植物園は、直営でなければ成り立たない。税金で導入し大切に育ててきた植物が枯れてしまいかねないからです。

西島 約1万2000種類、約12万株の植物を栽培・展示されていて、質量ともに国内トップレベルと言われる京都府立植物園の存続が危うくなったことは衝撃です。園長をされていた2006年(平成18年)は、まさにその真っ只中だったのでですね。

松谷 植物園の価値や必要性が理解されていない無念。その一方でPRや来園したくなくる企画が足りていなかったとの反省がありました。ただ、入園者数確保のためなら何をしてもいいわけではない。あ

くまで「ホンマモンの植物で勝負したい」との思いで、「生きた植物の博物館」の理念をあらためて職員一同で共有し、できることは何でもやってみようとの精神で取り組みました。技術課職員が現地を案内し解説する「土曜ミニミニガイド」もこの時に始まったものなんです。

西島 旭山動物園の当時の園長、小菅正夫こすげまさおさんにも会いに行かれたそうですね。

松谷 はじめてお会いした時に思い切って「指定管理者の話は出ていませんか？」と聞いたんです。すると、「いや、そんなことには絶対ならないよ。だって無理だろう」と力強い言葉が返ってきました。この時、私ももっと強い自信をもたなければと決意を新たにしました。園長を任された



年、職員一丸となった努力が実り、10年ぶりに入園者数70万人を達成できました。その時には、小菅さんがお祝いメッセージをファクスで送ってくださったんです。これにはもう大感激しました。今でも私の宝物です。

「名誉園長のきまぐれ散歩」もPR活動の一環ですね。参加者が多く驚きました。

松谷 退職後も、毎月1回程度、園内の見ごろの植物や隠れた名所などを案内しています。たくさんの方に興味をもっていただし、大変ありがたいです。現在の園長と副園長

も交代で「園内散歩」「花散歩」をおこなっていますし、植物園認定ガイドのボランティアの方々による「水曜ミニガイド」も人気です。また、季節に合わせた特集展示や講習会、植物園芸相談も継続しておこなっています。

ね。ジワジワと入園者が増えました。

西島 日本では品種改良をおこなない、花を愛でてきた歴史がありますね。

松谷 万葉集にもたくさんの花が取り上げられていますし、日本独自の華道も室町時代、京都に起源があります。江戸時代には花好きの将軍のために、参勤交代の際に各地から珍しい花を献上していたようです。今でも皆さん花見が大好きですし、花を愛でる文化のバックグラウンドは世界に誇れるのではないでしょう。植物園は憩いの場として、そうした文化的な貢献も果たしていると考えています。

日本人の花を愛でる文化に貢献

西島 源氏物語ゆかりの植物の紹介もされていますね。

松谷 入園者拡大を図るために職員から意見を聞く中、当時技術課長だった金子明雄さん（注・後に第十代園長）から提案があり調査したところ、

源氏物語に登場する110種類を超える植物のうち86種類が園内にあることがわかりました。源氏物語千年紀の頃でしたので、金子さんに写真撮

影と編集の技術を発揮してもらいパンフレットを作成しました。これを機に取材や講演の依頼があり、PRにつながったことも嬉しかったです。

ヤードで独自にこだわりの土を配合し種から育てていく。困難な栽培管理を支えているのは、職員の地道な努力と、経験の積み重ねによる高い技術と、「何としても花を咲かせて喜んでもらいたい」という思いです。水やり一つ取っても、本当に繊細な調整をし

世界の植物を守り、育て、咲かせる舞台裏

西島 PRという意味ではバックヤードにも興味があります。

松谷 植物園では、日当たりのよい場所に植えてスプリングカラーで水さえやってあげば花が咲くというわけにはいきません。生育環境が京都とは異なる世界の植物を、バック

ヤードで独自にこだわりの土を配合し種から育てていく。困難な栽培管理を支えているのは、職員の地道な努力と、経験の積み重ねによる高い技術と、「何としても花を咲かせて喜んでもらいたい」という思いです。水やり一つ取っても、本当に繊細な調整をし

ているんです。

西島 きれいな花は氷山の見えていっている一部分で、花を咲かせるための舞台裏は水面下で大部分が隠れているわけですね。

松谷 絶滅危惧種なども含まれるためバックヤードの一般公開は難しいのですが、在職

中では行政関係者や議員の方が視察に来られた際には積極的に案内していました。植物園の心臓部をお見せすること

で、継続的な後継者育成の必要性を理解いただく目的もありました。

西島 仕事に一生懸命取り組むだけでなく、その価値を社会に理解していただくことはどんな組織にも当てはまる大切なことですね。

松谷 植物園の存在意義は金銭では換算できません。ホンマモンの植物で府民の皆さんにどれだけ喜んでいただける



「名誉園長のきまぐれ散歩」



桜の香りを確かめ：

教育実践の場としての価値を広めたい

か。そのための栽培技術は世界レベルだと自負しています。1992年(平成4年)にはFS (FLEURO SELECT) (全欧州草花審査会)、1994年(平成6年)にはAAS (ALL America Selections) (全米草花品種審査会) のデ

イスプレイガーデンとして認定されました。これは、植物栽培の育成・管理技術レベルの高さと一定の入園者がいることを条件に認められたもので、東アジアで唯一両審査会から認定された植物園なんです。現在、イタリアのパドヴ

ア植物園、イギリスのキュー王立植物園、シンガポール植物園が世界遺産として登録されていますが、将来的には肩を並べるだけの実力があるのではないかとひそかに思っています。

アで発見されたジュラシックツリーは、光を効率よく取り込むために、東西南北あらゆる方向に枝が伸長、幹から枝の出る角度が幹の高さ位置で変化、枝に出る針葉が二方向につくなど、何一つ無駄のない樹姿を呈して成長します。「簡単にくたばったらあかん」と教えてくれてるなと思います。また、ヒマラヤスギの松ぼっくりに入っている種は、風に乗ってクルクル回りながら拡散します。親株の真下にも種はたくさん落ちますが、一斉に発芽すると虫に食われたり、病気が発生したりしてダメになる。でも、遠くに落ちた種は生き残る確率が高い。つまり過保護はダメだということ。まさに、アナログの生きた教育です。あらゆる方法で生き抜こうとする植物からのメッセージを広く伝え続けていくことも私に残された仕事かなと考えています。

西島 一般の来園者向け以外で力を入れておられることはありますか？

松谷 教育実践の場としての可能性をもっと広げていきたい

いので私自身は、大学の授業でも取り入れて実践しています。植物園でもすでにさまざまな取り組みがなされていますが、子どもたちにはぜひ毎年来てほしいです。もっと言うと、学校教育の一環として、高校生ぐらいまで年に4回、季節ごとに来て学ぶ機会をカリキュラムに組み込んでもらいたいですね。

これに気付いてほしいし、園側は気づかせる工夫をさらにしてほしい。
西島 仕事をリタイアされた方の来園も多いですね。
松谷 そうなんです。生涯学習の場としての存在意義も大きいですね。

西島 学びの場としての植物園の魅力とは？
松谷 なんとと言っても、植物の不思議と謎、生き抜く戦略の凄さに触られることです。瞬間だけの観察は「きれいやなあ」で終わりますが、時間軸を長くした観察を続けるとそういった現象がよりいっそう見えてきます。

継続して訪れると、変化に気づき、興味や発見につながります。無理に教え込むのではなく、気づかせる。それが本来の教育やと思うんです。植物園には理科教材があふれるほどあり、環境教育の側面もありますので教育実践の場として最適です。教育現場は

例えば絶滅したとされたけれど約30年前にオーストラリア

性、私も同感です。それもホンマモンの植物だからこそで

プロフィール 松谷 茂 (まつたに・しげる)

京都府立植物園名誉園長・京都府立大学客員教授
1950年生まれ。京都出身。京都府立大学農学部林学科卒。京都大学大学院農学研究所修士課程(森林生態学専攻)修了。1975年京都府庁入庁、農林部林務課。1995年より京都府立植物園勤務。技術課長などを経て、2006年6月、京都府立植物園園長就任。2010年定年退職後、京都府立大学客員教授に就任するとともに、同植物園初の「名誉園長」の称号が贈られる。著書に『打って出る京都府立植物園—幾多の困難を乗り越えて』(淡交社)、『とっておき! 名誉園長の植物園おもしろガイド』(京都新聞出版センター)、『植物園の咲かせる哲学』(教育評論社)



すね。お話をお聞きして、京都府立植物園を身近に感じると同時に価値を再認識しました。ホンマモンのよさを私たち生協の活動においても大切にしていきたいとあらためて思います。本日はありがとうございました。

きょうと食の安心・安全フォーラム
 ～「信頼で紡ぐ 京の食」をテーマに開催

2024年2月9日(金)、京都府立京都学・歴史館とオンラインで開催されました。主催は、きょうと食の安心・安全フォーラム実行委員会(京都府、「一社」京都府食品産業協会、NPO法人コンシューマーズ京都、京都鶏卵・鶏肉安全推進協議会、京都府生協連)。

行政、事業者、消費者が連携して、府民の食の安心・安全の確保に向けて貢献している事を府民に周知することを目的に開催し、今回は17回目。121人が参加しました。

京都府農林水産部農政課・渡邊昌英参事と京都府文化生活部生活衛生課・平松綾香主査が「京都府における食の安心・安全に関する取組み」について報告をしました。つぎに、京都府生菓子協同組合・上田孝博さんから「食の大切さ、心の安心・安全を届けたい」をテーマに報告。つづい

て「鶏卵業界のことを知ってほしい」をテーマに、(有)

みずほファーム・桑山直希代表取締役より報告。つぎに「お客様と地域との関係性」をテーマに清水農園・清水大介代表から報告のあと、意見交換をしました。

参加者からは「日本の食文化の中で五感を楽しませてくれる京菓子や、生でいただける京都の卵や筍は、生産者の方々の惜しみない努力の賜物だと思いました。また、食の安心・安全のために京都府が取り組んでいることがよく分かりました」などの感想がありました。京都府生協連・川村幸子理事が閉会のあいさつをしました。



京都府生協連・川村幸子理事

親子オンライン食育企画
 節分のイワシはこれで決まりだね！開催

2024年3月2日(土)、オンラインで「京都府の舞鶴で水揚げされた新鮮なイワシを使い、親子クッキングを通じて、食に対する関心を深める機会とする」ことを目的に開催されました。主催は京都生協・京都府生協連、共催は京都府協同組合連絡協議会。



京都府漁業協同組合・山本真理子主事(右)

親子25組、57人が参加しました。京都府漁業協同組合の山本真理子主事のご紹介の後、お魚クイズをおこない、イワシやセリ場の紹介動画を視聴。同・山本主事の指導のもと、事前に自宅までお届けしたイワシを包丁を使わずに手でさばき、フライパンを使って「イワシのマヨネーズパン粉焼



イワシのマヨネーズパン粉焼き

き」を調理しました。

出来上がった料理を食べながら交流しました。参加者から「息子は不登校です。約1年ぶりに授業形式の学びに参加することができ、親子でとても嬉しかったです。学べることをとても楽しんでいま



2023年度京都府食の安心・安全意見交換会

2024年2月22日(木)、令和6年度京都府食品衛生監視指導計画について意見交換しました。府内消費者団体から7人が参加しました。

京都府(市)令和6年度食品衛生監視指導計画案パブリックコメント

2024年、2月28日(水)、京都府に、3月1日(金)、京都市に意見書を提出しました。当会ホームページに掲載しています。

2024年 京都府生協連 新春交歓会開催



京都府生協連・
國見伸行副会長理事



京都商工会議所中小企業支援部・
外池順一郎部長



京都府文化生活部・
益田結花部長



京都府生協連・
西島秀向会長理事



京都府生協連・
川村幸子理事

2024年1月6日(土)、京都
テルサで京都府生協連2024年新
春交歓会を開催しました。

川村幸子理事が司会を担当、西島
秀向会長理事が、「人と人、組織と
組織との連携を活かし、生協は平和
とよりよい生活のために事業と活動
を進めてまいります」と開会のあい
さつをのべ、高取淳専務理事が会員
生協の役員を紹介しました。

来賓として、京都府文化生活部・
益田結花部長からごあいさつをいた
だきました。

地元選出の国会議員のみなさまは
じめ、府議会議員、市議会議員の方
たがご出席くださり、高取淳専務理
事からご紹介をさせていただきました。

京都商工会議所中小企業支援部・
外池順一郎長から乾杯のごあいさつ
をいただきました。

行政や議員のみなさんはじめ、79
人の方にご出席いただきました。

さいごに國見伸行副会長理事が閉
会のあいさつをのべました。



会員生協役員の紹介

祝電・メッセージをいただいた方

(敬称略・順不同)

衆議院議員 自由民主党 勝目 康
 衆議院議員 自由民主党 本田 太郎
 衆議院議員 公明党 竹内 譲
 衆議院議員 立憲民主党 泉 ケンタ
 衆議院議員 日本共産党 こくた恵二
 衆議院議員 無所属 北神圭朗
 参議院議員 日本共産党 井上さとし
 参議院議員 日本共産党 倉林 明子
 国民民主党京都府総支部連合会 会長代行
 国民民主党・日本維新の会京都府議会議員団 団長 北岡ちはる
 公明党京都府議 会 議員 団
 京都府農業協同組合中央会 会長理事 中川 泰宏

ご出席いただいた京都府会議員・京都市会議員

(敬称略・順不同)

京都府議会議員 日本共産党 光永 敦彦
 京都市会議員 公明党 川嶋 優子
 京都市会議員 日本共産党 やまね 智史

ご出席いただいた国会議員のみなさん

(順不同)



衆議院議員教育無償化を実現する会・前原誠司さん



衆議院議員立憲民主党・山井和則さん



衆議院議員日本共産党・こくた恵二さん



衆議院議員無所属・北神圭朗さん



参議院議員日本共産党・井上さとしさん



参議院議員立憲民主党・福山哲郎さん



どうぞ今年もよろしく



なごやかに歓談



ご無沙汰しています

農林水産省近畿農政局と近畿地区生協府県連との意見交換会



近畿農政局・安東隆局長

2024年3月1日(金)、コープ御所南ビル4階会議室とオンラインで開催しました。

この意見交換会は、1998年から開催しており、今年で25回目。近畿農政局からは、安東隆局長はじめ5人の方が、生協から近畿地区5府県の生協連などから、会場参加16人、オンライン参加52人、計役職員68人が参加しました。開会にあたり、近畿農政局・安東隆局長と、近畿地区生協府県連を代表して京都府生協



連・西島秀向会長理事があいさつをのべました。

安東隆局長からは「食料・農業・農村政策の展開方向について」の情報提供があり、食料・農業・農村計画、みどりの食料システム戦略について、報告があり、農村振興に向けた取組みや、近畿の農業についてもお話をいただきました。



兵庫県生協連・江見淳専務理事

生協からは、生協コープ自然派兵庫・正橋裕美子理事長が「誰もがオーガニックを食べられる社会へ」コープ自然派のオーガニック給食の取組み、市民生協ならコープ・宮高達也常務理事と同・杉田貴志農業事業担当から「農業からの地域づくり」、わかやま市民生協経営管理グループ・福永雅也CSRチーフより「アイガモ米作り体験」の報告があり、意見交換しました。兵庫県生協連・江見淳専務理事が閉会のあいさつをしました。

体感型防災アトラクション「ザ・リモート」共催

2024年2月18日(日)、午前と午後の2回、オンラインで開催され、130組242人が参加しました。主催はこくみん共済coop京都推進本部、京都府生協連が共催しました。年々増加する大型台風や地震などの自然災害。万一の災害から命と暮らしを守る防災・減災活動に関心を深める機会として、「風水害対策編」が開催されました。

小学4年生から参加でき、家族で映像体験やクイズなど、楽しく学びながら防災意識を高める内容でした。参加者からは、「防災について家族で話す機会になりました」「防災の備えを再点検する機会になりました」などの感想が寄せられました。

コープ御所南ビル消防訓練

2024年2月8日(木)、午前7時45分に1階店舗総菜作業場から火災発生との想定のもとに各テナントに入っている事業者の方々、店舗職員を含めて避難訓練と消火器訓練をおこないました。京都府生協連・高取淳専務理事が参加しました。

京都府、京都生協、京都府生協連の定期協議と物資調達机上訓練・意見交換

2023年11月29日(水)、災害発生時、円滑に応急対策物資の調達等ができるよう情報伝達の訓練と定期協議を三者(京都府、京都生協、京都府生協連)で実施しました。京都府と京都府生協連は、災害時における応急対策物資供給等に関する協定を締結しています。

関西地連 非常用通信機器(MCA無線)訓練

2024年3月6日(水)、日本生協連関西地連、京都府生協連、京都生協の間で訓練を実施しました。訓練の目的は、①通信機器の基本操作ができる人材を増やす②機器の状態やよりよい使用環境を把握する③情報伝達の運用面におけるノウハウならびに課題を把握し、参加生協間で共有すること。

当日の訓練では、各々の機器状態は良好で、また機器操作と情報のやりとりの面でも特段問題なく訓練を終了しました。次年度も引き続き、年4回の訓練が予定されています。

各会員生協との相互連絡防災通信訓練を実施

2024年1月18日(木)、午前7時に京都市内を震源とする震度6強の地震発生を想定。家屋の倒壊・道路の寸断・火災発生等も想定し、会員生協との間で「職員の安否確認・被害状況確認・対策本部の立ち上げ等」について非常用通信機器(MCA無線)やFAXを活用した訓練を実施しました。当日は8時45分、京都府生協連事務所内に対策本部を立ち上げ、会員生協から連絡を受けました。

2023年度 関西地連「大規模災害対策連絡会」

2024年2月20日(火)、全国生協BCPの推進、相互協力のあり方と支援、生協の災害対策、などに関する学習・交流することを目的に開催されました。「令和6年能登半島地震の状況について(コープいしかわ)」「MCA無線2029年5月末サービス終了後、今後の進め方について(日本生協連)」、「コープあいち・東海コープの大規模災害事業継続計画(BCP)の見直しについて(東海コープ事業連合)」、「2023年1月の雪

害対応について（コープ北陸事業連合）」の報告があり、意見交流しました。

マスコミ関係者との懇談会

2024年3月12日（火）、京都大学楽友会館会議室で、京都に支局を置く新聞・放送編集者との懇談会を開催しました。

開会にあたり、京都府生協連・西島秀向会長理事と時事通信社京都総局・藤井忠彦総局長があいさつをのべました。京都生協サステナビリティ推進部・上羽祐子マネージャー、立命館生協・風折昌樹専務理事より、それぞれの生協の特色的な取り組みについて報告し、懇談しました。京都府生協連・畑忠男副会長理事が閉会のあいさつをのべました。

「ひとりぼっち」第5回ひとりをめぐる「第5回ひとりをめぐる」

2024年2月10日（土）、ひとりぼっちをつくらない社会をめざす京都の会（※）が主催、京都府・京都市社会福祉協議会、京都新聞社会福祉事業協会の協賛で開催された。尾藤廣言代表。きょうされん京都支部を中心に、京都生協や京都中小企業家同友会などが参加。

業団の後援で開催され、ハイブリッド形式でおこなわれました。

この集いは、2018年に、第41回きょうされん全国大会が京都で開催されたことをきっかけに、きょうされん京都支部や生協、多くの関係団体が集まり、継続的に障がい者や高齢者などの社会的課題について考える場として開催しており、京都府生協連は実行委員会メンバーを担っています。

今回は、社会保障費の削減などにより、障がい者や高齢者のくらしに不安が広がるなか、今の社会情勢について学び、人類社会の全ての構成員の尊厳が守られる社会はどうあるべきかを考える場として開催されました。

ひとりぼっちをつくらない社会をめざす京都の会・尾藤廣喜代表の開会あいさつにつづき、仲間たちによるミニコンサートが披露されました。

きょうされん京都支部長・三木裕和氏（立命館大学教授）より「誰もが大切にされる社会、なによりも平和を」をテーマに基調講演がありました。年始に発生した能登半島地震を受け、ご自身が経験された阪神淡路大震災の経験から、「日常の苦難が非日常時に顕

著化する」ことを実感したが、社会保障の抑制など、日常のくらしを取り巻く環境の改善は今もすすんでいないと話されました。

つぎに、「ひとりぼっちをつくらない社会をめざして」をテーマに、佛教大学・田中智子教授、認知症の人と家族の会京都府支部・鷲巢典代氏、みやづ作業所管理者・西垣幸子氏、京都府保険医協会・中村暁事務局次長がシンポジウムに登壇され、三木裕和氏がコーディネーターを務められました。当たり前の人生、当たり前前のくらしができるよう、今の社会や介護保険制度が抱えている問題や課題の解決に向けて求められることについての報告や意見を述べられました。最後に、全体のまとめと閉会あいさつが、京都生協・姜美名副理事長からありました。



仲間たちによるミニコンサート

京都環境フェスティバル 2024

2024年2月3日（土）、京都府総合見本市会館（京都市パルスプラザ）・大展示場で、4年ぶりに実会場で開催されました。

「集まれ！未来の環境リリーダー！」をテーマに、府民ら約7,000人が来場しました。



熱心に説明を聞く来場者

れる、京都環境フェスティバル実行委員会。

京都府生協連のブースでは、会員生協の京都生協、生協生活クラブ京都エル・コープ、生協コープ自然派京都が出演・参加され、それぞれがすすめている環境保全やエシカルの取り組み紹介があり、多くの来場がありました。



展示物にも学びが…



特色ある取組みが紹介されました

日本の食料安全保障と農業の持続可能性

みどりの食料システム戦略で 日本の食料自給率は上がるのか？



愛知学院大学・関根佳恵教授

2024年2月27日(火)、
コープ御所南ビル4階会議室
で開催。主催は京都府生協連
で、役員22人が参加しまし
た。
西島秀向会長理事が開会の
あいさつをおこない、鮎江賢
光事務局長が司会をつとめま
した。
ロシアのウクライナへの侵
攻にともなう世界的な食料不
足や、地球温暖化による異常
気象がもたらす農作物への被
害拡大、肥料や飼料の高騰に
加えて燃料価格の高騰も続い
ており、日本の「食料安全保
障」が脅かされる事態となっ
ています。
今回は愛知学院大学経済学
部・関根佳恵教授を講師にお
招きし、国が進める「みどり
の食料システム戦略」の内容



京都府生協連・西島秀向会長理事が開会
あいさつ

や課題について学び、日本の
食料自給率を引き上げていく
ために何が必要なのかを考え
る機会にすることを目的に開
催しました。
関根教授からは、すでに直
面している食料をめぐる多重
危機や、日本と世界の食料自
給率の現状、食料自給率の低
下にもなう食料安全保障・
食料主権・食料への権利の脆
弱化・崩壊、食料安全保障の
確立を図る食料・農業・農村
基本法改正について、持続可
能な食と農にするには国際社
会の新たな潮流である、アグ
ロエコロジーと小規模・家族
農業の推進が肝要であること
などを、詳しく講演されまし
た。
参加者からは「系統立てて
お話していただきとても参考

になりました。食料を権利と
して考えるというのは、これ
から積極的に取り入れたいと
思います」「食料自給率38%、
もうずっとほぼ変わっていない
数値。変わらないままの怖
さを感じます。我が家は家族
で食べる分の(野菜作り)畑
をしています。これも大きな
一つなんだと改めて思いまし
た。自分たちで作ることで農
薬を使わない、おいしい野菜
が食べられることも良い事だ
と思っています」「対症療法
よりも全身治療をという言葉
が、お話を聞いていくうちに
腑に落ちた。まさしく私たち
は多重危機に面しており、一
つの側面への対策だけでは到
底解決できる問題ではないこ
とに気づいた」などの感想が
ありました。



おもな行事のお知らせ

京都府生協連 第71回通常総会

日時：6月11日(火)

午後1時30分～午後3時45分
(予定)

会場：京都府立総合社会福祉会館八
ートピア京都3階大会議室

ピースブレッド(2024年度 ピースアクション京都)

日時：6月21日(金)

会場：京都市営地下鉄蹴上駅付近か
ら京都市役所まで(予定)

2024年国際協同組合デー

第34回京都集会

日時：7月3日(水)午後1時30分

～午後4時(予定)

会場：京都JAビル
控えて「地域から考える新次
元の協同組合問協同」(仮題)

第55回京都消費者大会

日時：5月26日(日)午後1時30分

～午後3時45分(予定)

会場：京都経済センターとオンライン

テーマ：デジタル時代に求められる
消費者力とその情報、だいい
「よつぷっ」